

津久井中央ロータリークラブ



事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F

TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830

例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30

会長 前沢弘之 幹事 井上 旭



第 1163 回 平成 30 年 11 月 8 日(木曜日)《14》

司会 沼崎善充 SAA 会長 前沢弘之会長 斉唱 手に手つないで

会長挨拶 前沢弘之会長

まことにお恥ずかしい話ですが、私は洗濯や掃除をしたことは、ちっとはありますが、ご飯を炊いたことがありません。子供のオムツは、上の二人については一度も替えたことがありませんでした。男性会員の皆さんは、どうですか？

で、今日は、うまく行くかどうか分かりませんが、「家事 (Housework)」についてお話してみます。

言うまでもなく、私たちの生命を維持するためには、食べること、着ること (体温の保持)、住まうこと (衣・食・住)、それから、子供だったら誰かに育ててもらふこと、年寄りや病人だったら誰かに世話をしてもらふことが必須ですね。(まあ、どれにも金がかかる…。) これらが行われるのが、(主に) 家庭であり、これらを行なうことが、すなわち家事ですね。そして、この毎日の食事の支度、掃除や洗濯、養育や介護等々の果てしない繰り返しの仕事を担ってきたのは、圧倒的に女性です。私の母親は専業主婦でしたから (実は、専業主婦という在り方は、20世紀に入ってから生まれたものなのですが)、母親と言うと、料理や裁縫を思い浮かべます。「アカギレの手で、夜なべして手袋を編んでくれた」というイメージは、私や私より上の世代であれば、なじみ深いものだと思います。

もっとも、そういえば、先だつての少年野球ロータリー杯の開会式の時に、各チームの少年たちが選手宣誓をしたのですが、「僕たちに、いつもお弁当を作ってくれて、応援してくれるお母さん…」というようなフレーズが何度も出てきて感心してしまいました。うちの子供たちの小さいころの「母の日」のお手紙は、判で押したように「お母さん、いつもご飯を作ってくれてありがとう。」でしたね。こういう素直な気持ちを失ってはいけません…。

さて、その「主婦」が出現するという事は、家庭が生産の場でなくなったということです。一言でいえば、工業化・産業化の進展ということなのですが、これを (多くの) 男性から見ると、その労働形態が農業 (漁業、林業) → 小規模な商業活動 → 賃労働へ、というふうに変えて、家から外へ外へと出て行く過程です。一方、(多くの) 女性から見ると、農業や商業の担い手から、逆に内へ内へ、家に閉じ込められていくプロセスであったわけです。

結果、女性の立場は、まるで、お金を持ち帰ってくる男性を陰で支えるような具合になり、イヴァン・イリイチはこれをシャドウ・ワークと呼びました。(イリイチの「シャドウ・ワーク」にはとても深い意味があるのですが) 報われない、陰の仕事と言うイメージですね。

そして、現代に到るこの数十年は家事の機械

【出席報告者 田畑和久委員長】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
16	15	13	2	86.67%	85.71%	81.25%
本日欠席者	高橋会員、具会員					

化、外部化の過程でした。たまたま電器店へいくと、まあ、いろんな家電があって驚きますね。外食産業、クリーニング業、コインランドリー、保育所、学習塾、老人ホーム、スーパーマーケット、コンビニ、葬儀屋さん…。これらは、かつて家庭で行っていたことを外部化、産業化していったものということができます。考えてみれば、我々は、ゴミの処理はもとより、実に色々なことを家から外へ出し続けてきたわけです。トイレの水洗化、下水道の整備は、人間の排泄の外部化ですね。イヤなものを見えなくする。肉はよく食べるけれど、屠殺場がどこにあるか知る人は少ないでしょうね。もっと言えば、出産する場所も、死ぬ場所も、今は病院です。人の誕生と死が、外部化されて見えなくなっている。

そういった流れは、面倒な家事や諸々のしがらみから人々を解放する効果もあったので、歓迎され続けてきた…ように見えます。でも、そうすると、家事という仕事は、すっかりなくなった方がよいということなのでしょう。家庭で料理をしたり弁当を作ったり洗濯をしたりするのは、外食やデパ地下のお惣菜やクリーニング屋ばかり利用していたのでは金がかかってしょうがないから仕方なく、なのか…。

確かに、私の母親のことを考えてみると、炊事、洗濯、子育てや親戚づきあいに明け暮れて、子どもが大人になってやれやれと思ったら、老親の介護…という具合でしたから、これじゃあ私の人生何なの、と何度も思ったはず。家事という仕事は、して当たり前という感覚があり（これは、明らかに男性側の身勝手な感覚です）、だから支払われない。その上、誰も（子どもの頃の素直な気持ちなんてすっかり忘れて）感謝なんかしてくれないから報われない。そうすると、自分の人生の意味を問いたくなる…。何回か前にお話しした、他者承認欲求の問題です。アイデンティティということですね。

（少し脱線します）私たちも、子供の頃から、大きくなったら何になるの？と聞かれ続けてきましたよね。子供に「何になる？」というのは、実は残酷な質問です。今のままじゃいけないということですから。今ここに「ある」ことよりも、将来何かに「なる」ことの方が大事だと刷り込まれ続けるわけですから。ちなみに、精神科医のロナルド・D・レインという人が、アイデンティティについてこんなことを言っ

ています。「自己のアイデンティティとは、自分が何者であるかを、自己に語って聞かせるストーリーである。」これ、とても優れた言葉ですから、憶えておくとよいと思います。（アイデンティティについては、長い話が必要ですので、またの機会にします。）

（元に戻ります）さて、毎日毎日、報われない仕事をして、旦那は忙しい忙しいばかりだし、子どもの出来は悪いし、その上、義理の親の面倒まで見させられたらどうなるか。…誰でも想像がつかますね。イヤになるに決まっています。それで、家事が機械化され、外部化されて、いくらか時間ができて、主婦たちは街に出た。スポーツや習い事を始めた。地域に出た。物足りなくなって働き始めた。そうこうするうちに景気が悪くなって、旦那の稼ぎが悪くて、今や働かざるを得なくなった…。なんて世の中だろうと思いますよね。「自分が何者であるかを、自己に語って聞かせるストーリー」が欲しくて、外に出てきたのに、ふと気づいたら、手元にあったはずのもの（例えば、料理や裁縫の技術の継承だとか、大きく言えば文化の伝承とか、生活の手ごたえとか）まで失われていた…というような状況が、（多くの女性にとっての～従って、多くの男性にとっての）現代だという気がしてなりません。じゃあ、元に戻せということかといえば、それは無理ですね。…というか、ここでも、またいつものような話になってしまっていますが、本当に失ってはいけないものを、見つけ直す作業が必要になるのではないかと…。

家という場所は、核家族化しようがしまいが、いわば人間の実存の場所です。こうなりたいたか、こうでありたいとかいう（可能的な）ものではなく、「本当は」も「本来の」もない、つまり、概念的なものでない、肩書のない、裸の、ありのままの生き物としての場面です。子供にとっては、最初に出会う生活環境ですから、人格の核（コア）のようなものが作られる場所です。心についても、体についても。それが、家という場所の、会社や組織とは決定的に違うところだと思います。家事は、そういう場所での、とても大事な仕事です。果たして、これをやたら省力化、外部化してよいものかどうか。なくしてしまうのが理想なのかどうか。…なんというか、要するに、旦那もやれ、少なくともちゃんと感謝しろというような、ごく当た

り前のことを含めて、シャドウ・ワークを「なくす」のではなく、日の当たる場所へ引っ張り出すという作業が要請されているのではないかな…。じゃあ、それはどうすることなのかと言えば、「かわり映えのしない日常の際限のない繰り返しという世界で、失われてはならないものを守り抜く」ということですから、おそらく小難しい理屈みたいなものでは太刀打ちできません。たぶん、カギになるのは、愛とか慈しみとか、情熱というような、やむにやまれぬ実存的？な何かです。(どうもうまく言えません。「家事」は、明らかに私の弱点ですね…。)

最後に蛇足です。仕事柄、時々、都心の交通の便の良い場所の、しっかりしたマンションに住みたい。そういうところなら、別にどこでもよい。できればおしゃれな街だという評判のところがい…というような話を聞きます。そういう志向は、特に女性に強い。これは、一体どういうことだろうと思います。私自身には、どこに住んでもよいという感覚は無いものですから。たぶんですけど、男は、大体、肩書が無いとうまく生きていけない。何かしら、自分がそこにいなければならない理由、根拠が見つからないと、うまく生きていけない。そういう弱っちい存在である。その点、(多くの)女性は、どこだって生活はできる。どうせ生活するなら、便利でおしゃれなところが良いに決まってるじゃない…ということなのでしょうかね？(これも偏見でしょうかね)。生活能力というか、男と女の実存の場面の力の差みたいなものかもしれません。

だから、うちの男の子二人には、ちゃんと家事ができるようにさせたいと思います。…というか、まず、私のご飯を炊けるようになるべきだ…っちゅうことですね。

以上、大変とりとめのない、ほとんどしどろもどろのような話になってしまったような気がします。25周年記念家族旅行は、我々が、家族に対する感謝を示す大事な機会にしようというわけですので、そんな意味もあって、敢えてお話しさせていただきました。

幹事報告 井上 旭幹事

週報受領

相模原柴胡 RC

ロータリー関係受領書類

ガバナー事務所

社会・国際奉仕一セミナー資料

米山月間奨学生卓話アンケート

ローターアクト第30回地区年次大会開催案内

11月のロータリーレート 1ドル=112円

津久井 RC 相模原東 RC 相模原柴胡 RC

相模原グリーン RC

例会変更通知

その他の受領書類

津久井商工会

「一日公庫」開催案内

「電子決済の最新動向と今後の展望」

セミナー開催案内

観光センター祭りについて 沼崎善充社会奉仕委員長

18日(日)の開催される津久井観光センター祭り参加し、模擬店とポリオ募金(組み紐体験)を行います。

時間は10:00~16:00ですが、販売が終了した時点で終わります。場所は観光センター周辺(花の苑池)です。交通手段は各自にて、服装はロータリージャンパー着用です。9:30集合、販売の準備をお願いします。

テントやテーブルは観光協会にて用意してくれますが、椅子やその他必要な物は各自で用意ということです。

当日、閉店後観光センターに売上の明細を提出し、売上金額の10%を手数料として支払います。

搬入は8時位に裏から入って下さい。9時半頃までは一般駐車場が空いていると思いますのでメンバーは利用して下さい。

スマイル報告 田畑和久委員長

『スマイル報告 田畑和久委員長』



津久井中央 RC

前沢弘之 会員 クラブは 25 周年、私の車は 17 年。そろそろ買い換えようと思っていたのですが、車検期限になってしまい、津久井自動車に出したところ、やたら調子がよくなってしまいました。何事もメンテナンスということですね。

井上 旭 会員 11 月に入りましたが毎日暖かい日が続いていますが、インフルエンザの声も聞かれはじめています。風邪など引かぬ様気を付けましょう。

小山里枝 会員 いろいろありすぎてうまく書けません。スマイルします。
きょうはわけわからなくないでしょっ!!!

水野 茂 会員 今日も小川さんが元気そうなので、スマイルします。

小川洋一 会員 秋が深まってきました。なんとなく物悲しい今日このごろです。

山崎和彦 会員 元気が出るようにスマイルします。

八木 勉 会員 お久しぶりでございます。元気でございます。

杉本信一 会員 横浜生れ、大久保育ちの街路灯、ようやく来週点灯式。昭和のかおりが会社の入口に設置

吉野賢治 会員 立冬を迎え、山も色づいて来ましたね！風邪をひかないよう気を付けましょう。所用の為、早退します。

沼崎善充 会員 マジメに一週間仕事してました。昨日まで韓国人の女学生 49 名とガイドの仕事して、私の年令を聞かれて平均 42 歳ト言われてアボジはうれしかったです!!
11 月 18 日の津久井湖バザーには皆様ヨロシクお願いします。私個人はどうしてもこの日が仕事で欠席になります!!

PS 出品の品、協力ありがとうございました。

池田豊文 会員 18 日のバザーで出品するものを探していたら、子供たちが小さいころの物が沢山出て来ました。懐かしく嬉しかったのでスマイルします。

田畑和久 会員 明後日の土曜日に長女の結婚式があります。7 月に届けを出して、8 月から群馬の大田に引っ越して、今さらの式です。つつましくやると言っていたのが、先方が一人息子の為、段々こだわりが出はじめて、ついに私は、紋付きハカマの正装となってしまいました。次女がチョンマゲのかぶり物を買ってくるそうです。